

研究レポートその2

大阪ガス(株)エネルギー文化研究所 三島 順子

ライフ・ステージ分析から 見えてくるもの

大阪ガス(株)エネルギー文化研究所が毎年実施している「生活者の意識と行動」アンケート。従来の「性別」と「年齢層」で区切った分析では見えづらいような価値観の多様化が現代では進んでいるのではないかと「ライフ・ステージ分析」から現代を生きる人びとの考えかたが見えてきた。

「2013年度生活者の意識と行動」調査より

はじめに

社会や暮らしが高速化、複雑化し、個人の価値観が多様化しているといわれて久しい。では、どのような変化なのか、その実態をありのまま捉えるべく、当研究所の生活者意識調査をリニューアルした(Chart 1)。

新分析軸の検討と試行

ライフ・ステージによるアプローチ

価値観の多様化とは従来の「性×年

「2番目に関心のあること」を各々2点ずつ、最大4点を回答することができる(以下、関心事)。

自由記述式では回答が多岐にわたるため、類似の回答を集約、分析する。例えば「車」「自動車」を「自動車」に、「貯金」「投資」を「資産関連」などである。一方、受験・就職・結婚など幅広い年齢にわたるものは「子ども」としてくり、対象が乳幼児・小児期に限られる「子育て」(育児・妊娠などを含む)とは別ものとした。

人々の最大の「関心事」は「健康」であった(次頁Chart 3)。見えてくることは「社会的事象」は抽象的で総論的な表現が多く、回答が集中しやすい(上位5項目計61%)。一方「身の回りのこと」は、健康が最も高く、それ以外は多様である。例えば「ゲーム、娯楽、趣味」は「登山」や「マラソン」など個別具体的な回答が含まれる。また「社会的なこと」は、加えて直前の報道や事件・事故等に影響される傾向がある。今回なら、9月1日の福島第一原発汚染水漏れの発覚や9月8日未明に報じられた「東京五輪招致決定」の影響が大きい。調査を継続していくことでコンスタントな関心事を捉えられるだろう。

健康と関心事の有無の関係性

ここでは関心事がない場合は「ない」と回答することになっている。そのため、前節の分析は関心事として具体的に

調査対象:	全国の学生を除いた成人男女(20~80歳)3000人 (国勢調査の人口構成に準拠)
調査時期:	2013年9月6~11日
調査方法:	ネットモニターを使ったインターネット調査 (調査・分析ともに、株式会社インテージに依頼)
調査項目	
基本項目	<ul style="list-style-type: none"> ① 生活 生活満足度、関心事、生活価値観、結婚・出産意向 ② 健康 健康状況、ストレスの有無・原因 ③ 老後の暮らし 住まい、介護 ④ 食事 朝・昼・夜食の頻度、場所、食事内容 ⑤ 入浴 入浴の仕方、時間、目的
単発項目	<ul style="list-style-type: none"> ⑥ 外出・買物行動 外出、利用交通機関、買い物の負担 ⑦ ソーシャルメディア 利用メディア、利用時間、目的

※本調査は毎回同じ内容の「基本項目」とその都度設定する「単発項目」に分かれる。

ライフ・ステージ		判定される要件						
大分類	小分類	内訳	年齢	配偶者の有無	子どもの有無	職業の有無	居住形態(同居者)	子どもの年齢
単身世帯	年齢が20~39歳	172人	✓	✓			✓	
	年齢が40~64歳	144人	✓	✓			✓	
	年齢が65歳以上	86人	✓	✓			✓	
親と同居している「子」世帯 (回答者が「子」の立場)	年齢が20~39歳	310人	✓	✓			✓	
	年齢が40歳以上	184人	✓	✓			✓	
ひとり親と子の世帯 (回答者が「親」の立場)	年齢が20~64歳	39人	✓	✓				
	年齢が65歳以上	47人	✓	✓				
夫婦のみ世帯	年齢が20~39歳	115人	✓	✓	✓			
	年齢が40~64歳	345人	✓	✓	✓			
	年齢が65歳以上	390人	✓	✓	✓			
夫婦と子の世帯 (回答者が「親」の立場)	共働き:末子小学生以下	143人		✓	✓	✓		✓
	共働き:末子中学生以上	182人		✓	✓	✓		✓
	専業主婦:末子小学生以下	230人		✓	✓	✓		✓
	専業主婦:末子中学生以上	316人		✓	✓	✓		✓
三世帯世帯	本人+親+子ども	175人			✓		✓	
	本人+子ども+孫	59人			✓		✓	
その他世帯		63人						

在過半数である。

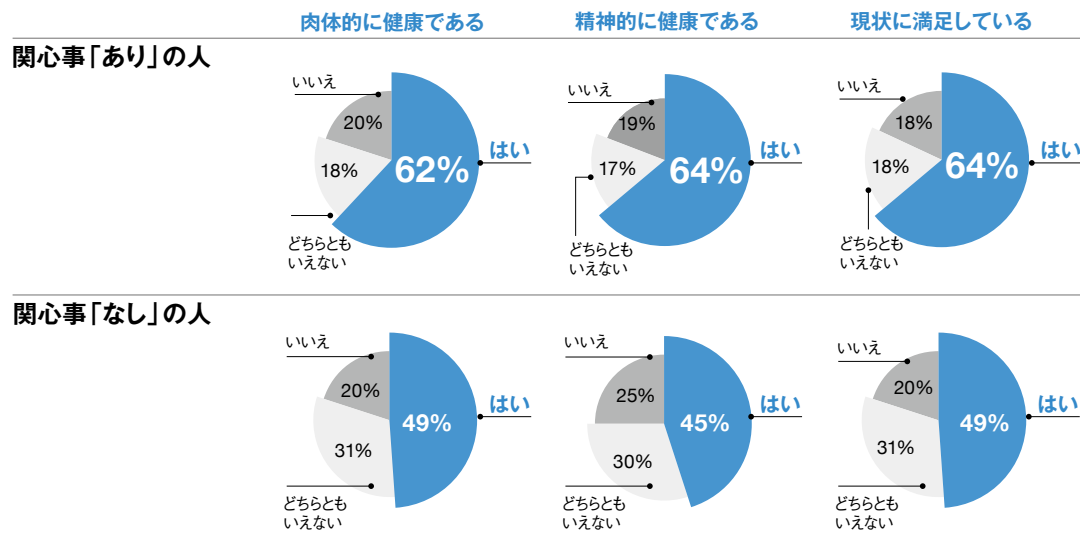
調査では配偶者、子ども、仕事の有無を問い、大きく7つ、詳細には17の「ライフ・ステージ(以下、LS)」「(人)生を入学・就職・結婚・退職等人生の節目ごとで区切ること」に分類、LSごとに結果を分析し、価値観の多様化を捉えてみることにした。今回使用するLSはChart 2の通りである。

関心事について

「社会的事象、身の回りのこと」について尋ねた。「最も関心のあること」

年齢、配偶者の有無、子どもの有無、職業の有無、居住形態(同居者がいるか否か)、子どもの年齢を、ライフ・ステージのグループ作成の判断条件とした。

Chart 4 関心事がある人の方がより健康で、現状の満足度が高い 関心事の有無と健康・生活への満足の関係性



「あり」グループは、肉体的・精神的に健康である、現状に満足しているという回答が多かったのに対し、「なし」グループは、肉体的・精神的に健康ではない、現状に満足していない、もしくはどちらともいえないという回答が「あり」グループよりも多い傾向が読み取れる。

※「健康である」で、「はい」は「非常に健康だ」+「まあ健康だ」を合わせたもの、「いいえ」は「あまり健康ではない」+「まったく健康ではない」を合わせたもの。「現状に満足している」で、「はい」は「非常に満足している」+「やや満足している」を合わせたもの、「いいえ」は「あまり満足していない」+「まったく満足していない」を合わせたもの。

Chart 5 ライフ・ステージ分析で細かく見えてくる価値観の多様さ LSによる関心事の有無と健康への関心の違い

		「関心事」なしの人	「健康」に関心のある人
全体		35.3%	13.4%
若年層	若年単身(20~39歳)	51.2%	5.8%
	親と同居(20~39歳)	53.9%	3.5%
	ひとり親と子(20~64歳)	(43.9%)	(0.0%)
	若年夫婦のみ(20~39歳)	29.6%	3.5%
	夫婦と子 共働き:末子小学生以下	38.5%	4.2%
中年層	夫婦と子 専業主婦:末子小学生以下	33.0%	5.2%
	中高年単身(40~64歳)	34.0%	10.4%
	親と同居(40歳以上)	34.8%	16.3%
	中高年夫婦のみ(40~64歳)	32.5%	15.7%
	本人+親+子ども	41.1%	12.6%
	夫婦と子 専業主婦:末子中学生以上	30.7%	16.5%
高年層	夫婦と子 共働き:末子中学生以上	30.2%	9.9%
	高齢単身(65歳以上)	22.1%	33.7%
	高齢夫婦のみ(65歳以上)	24.6%	26.4%
	ひとり親と子(65歳以上)	29.8%	29.8%
その他	40.7%	22.0%	
		33.3%	12.7%

結婚していると「関心事」が増える傾向がある

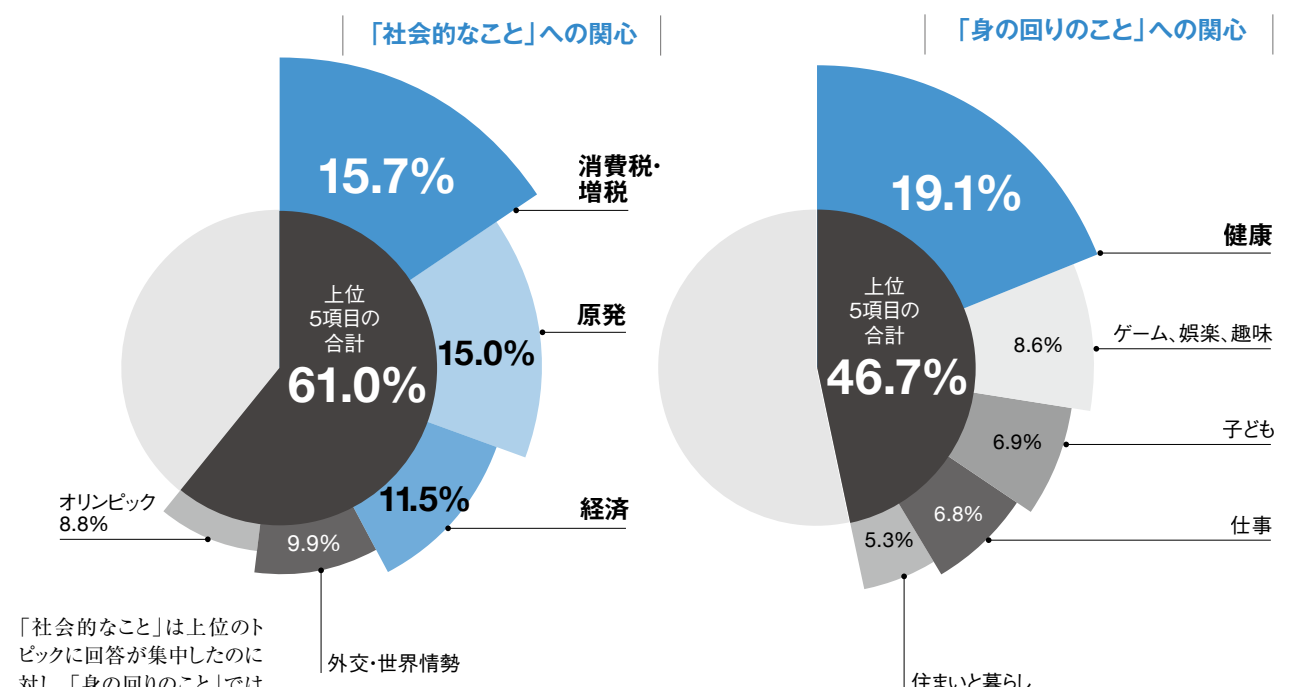
年齢が上がるとともに健康への関心が高まっているのがわかる。比較的年齢が若いLS(上の6つのグループ)では、結婚しているグループ(「若年夫婦のみ」「夫婦と子 共働き:末子小学生以下」「夫婦と子 専業主婦:末子小学生以下」)は「関心事がない」という回答が少ない一方、結婚していないグループ(「若年単身(20~39歳)」「親と同居(20~39歳)」「ひとり親と子(20~64歳)」)は「関心事がない」という回答が多くなる傾向がうかがえる(カッコ内はサンプルが少ないため参考値)。

年齢が上がるとともに健康への関心が高まっている

「多い、関心事が「ない」グループ」
 ところで「身の回りの最も関心のあること」は「健康」だと述べたが、実際のトップは「関心事なし」である。そこで「健康」と「なし」の関係性をLS別の分析で試みた(Chart 5)。
 一見してわかるのは年齢が上がるにつれ「なし」が減少、「健康」が増加する。若年層には健康が身近で当たり前である

り、高齢層には健康、病気にならないことは重要で常に用心することなのだ。だが、同じ若年層でも「なし」の多いLSと少ないLSに分かれる。高LSは《若年単身》《親と同居》《ひとり親と子》、低LSは《若年夫婦のみ》《夫婦と子》となり、両者の相違は「配偶者の有無」である。なかでも《若年夫婦のみ》は「なし」が最も少ない。このLSにいる人たちは、夫婦として新しい関係性を作りつつ、他LSへ移る前の期間限定のLSであるのか、このまま《夫婦のみ》で年齢を重ねるのか、選択肢が多く、思慮も相談も決断も大いに必要であり、「なし」ではいられないのではないか。
 性・年代別では捉えきれなかった各LS別の特徴を明らかにする新しい見方を紹介した。ただし、分析手法のLSは万能ではなく従来型が有効なケースも多々ある。LS別、「性・年代」別だけでなく、技術革新や社会の変化(高速化、家事を含むさまざまな外部サービス、技術の浸透など)が影響を与える世代別特徴も垣間見える。それらも含め、入浴、食事、モビリティ(移動手段)など今回の調査結果は今後、当研究所のWEBサイトにて公開予定である。

Chart 3 アンケート結果で関心が高かったトピック



「社会的なこと」は上位のトピックに回答が集中したのに対し、「身の回りのこと」では「健康」が抜きこんでいるが他の回答はばらける傾向にあった。しかし、実際に最も多かった回答は「関心事がない」で、「社会的なこと」「身の回りのこと」のどちらでも、回答の約1/3を占めた。